

## 渡辺財務大臣政務官交え研修会開く 浄化槽維持管理現場の視察等実施

NPO法人浄化槽ナビゲータ認証機構(=浄ナビ、理事長・松田從三北海道大学名誉教授)は11月9日、静岡・浜松市の浜名湖レイクサイドプラザで2018年度研修会を開催した。浄化槽維持管理業者など全国から約50名が参加する中、環境省の松田尚之浄化槽推進室長を講師に浄化槽行政の動向等について研修した。また翌10日は、財務大臣政務官を務める渡辺美知太郎参議院議員を交え、浄化槽維持管理の現場視察を行い、その後、浄化槽の適正な維持管理、浄化槽を取り巻く課題等について意見交換した。

初日の研修では、来賓出席した浜松市上下水道部お客様サービス課の高橋伸行課長が挨拶した後、松田理事長(写真上)は「浄ナビは浄化槽システムの普及や整備の支援、また浄化槽の技術やサービスについて、公益性を第一に第三者的に評価・認証する組織。傘下企業はまだ35社にとどまっているが、現在もさまざまな地域で研修会を実施することで、徐々に参加者が増えてきている。本日お見えの松田浄化槽推進室長にも活動は評価されており、それを誇りにさらに推進してまいりたい」「さて浄化槽が普及し40年を経過したが、当時の単独処理浄化槽は



老朽化もあり、合併転換が重要となっている。我々のNPOでも大きな課題として捉えている。また浄化槽台帳の整備もNPOとして重要な事業。さらに海外での活動も、環境省から後押しいただいているが、ハンガリーや東南アジアでの普及活動も、我々は実施している。こうした研修会等をさらに広げ、浄化槽の適正な普及、維持管理技術の向上につなげてまいりたい」と挨拶した。

次いで浜松市上下水道部お客様サービス課の高橋直樹氏が「浜松市の浄化槽の現状と課題」、環

境省の松田浄化槽推進室長が「浄化槽行政の動向」について講演した。

高橋氏は浜松市内での浄化槽普及や法定検査受検率の状況、(一社)静岡県浄化槽協会と連携した戸別訪問や環境教育などの取り組みを説明するとともに、全国の課題となっている浄化槽台帳システムについては、下水道の地図情報システムを活用した台帳整備を実施していると紹介した。

また松田浄化槽推進室長は、浄化槽普及の状況等のほか、近年の主なトピックとして6月に改訂されたばかりの「廃棄物処理施設整備計画」、共同浄化槽の設置など、浄化槽事業の維持管理費縮減に向けたアイデア、今後必要とされる浄化槽台帳システムの整備、浄化槽の省エネ化、海外展開、平成31年度予算概算要求の状況について説明した。

研修会の2日目は、渡辺財務大臣政務官を交え、単独処理浄化槽と合併処

理浄化槽の清掃現場の視察を行った。単独処理浄化槽は設置から約20年が経過したニッコーPC-10N型、合併処理浄化槽は単独転換により設置したフジクリーンCA-7型で、いずれも浄化槽汚泥の引き抜き、槽内のチェック、水張りまでの工程を確認した。

視察を終え、渡辺参議院議員は「貴重な現場を視察する機会をいただき感謝申し上げます。私は財務大臣政務官を拝命しているが、もともとは環境族。近年は災害が頻発し、残る未整備地域も下水道では不向きな地域が多い。こうしたところに浄化槽を活用するなど、発想の転換が必要かと思う。地方創生という意味でも浄化槽は大きな役割を担っている」と期待を述べた。

この後は昼食会が開かれ、浄化槽の適正な普及、海外展開、浄ナビの果たす役割について意見交換を行い、2日間の日程を終えた。



CA-7型の清掃作業を視察する渡辺議員(写真中央)



PC-10N型の清掃を行う(有)明治商会の社員、手の届く範囲は全て手洗いする